

「ウチナーンチュ大会 2 日目」

文責 河野 健太

s

【はじめに】

本日は沖縄 FW も残すところあと 3 日という状況の中巡ってきたフリーDay でした！このゼミ生がそれぞれの興味分野に基づいて自由行動をする日だったので、今回は僭越ながら私のこの日の行動について紹介させていただきます。文字数の関係上、詳細の記述は一部に留めさせていただきます。割愛した活動についてはタイムスケジュール欄で少々掘り下げて記述いたしました。悪しからず。

【タイムスケジュール】

10 時ごろ：宿舎出発

11 時ごろ：日本最南端の駅 赤嶺駅で写真撮影。単独行動のため特にやることもなく 5 分で終了

11 時半ごろ：ハローワーク那覇訪問 @おもろまち駅

13-14 時半ごろ：昼食、散歩 @県庁前駅周辺

14 時半ごろ：沖縄県庁訪問 @県庁前駅

⇒ここでは県庁の統計資料閲覧室に訪問しました。沖縄県外から移住する人の統計データを収集するためです。県職員の方にお手伝いして頂きながら調査しましたが、結局把握できたのは月別の転入者数とその男女比にとどまり、更なる詳細な情報を入手することはできませんでした。残念。

16 時半ごろ：琉球大学主催の国際フォーラムに参加

⇒琉球大学の研究者のチームが主催したフォーラム。テーマは「人の移動と 21 世紀のグローバル社会 ―海外日系紙記者のみた移民社会―」というものでした。海外の日系人コミュニティ向け新聞を発行している新聞社の記者の方々がこれまでの仕事・取材を通して見えてきた現地の日本人コミュニティ変化、変遷などについてプレゼンテーションしてくださいました。それぞれブラジル、アルゼンチン、ハワイなどで日系人コミュニティの状況が異なりますが、共通した認識として「次世代への世代交代の必要性」と「コミュニティの縮小の懸念」があるように感じました。その中で日系 3 世への世代交代がうまく進むハワイと、コミュニティ自体が縮小傾向にあるブラジルの対比は印象に残っています。

19 時過ぎ：帰路につく

21 時ごろ：宿舎に戻る

【河野の興味分野について】

卒論のテーマにも関連しますが、私は東京などの都会の生活から様々な理由で「ドロップアウト」し、東南アジアや沖縄などに移住する若者の実態に関心があります。彼らに対するアカデミックなほとんど文献は存在せず、このような人々は「外こもり」（海外で引きこもっている）だとか「沈没した人びと」などの呼ばれ方があります。先述した通り、本土から沖縄に移住する若者の存在は一時期、沖縄への移住ブームにあわせてクローズアップされたこともありますが、その実態は統計的データの不足、先行研究の不足などが原因でなかなかつかみづらいという難点があります。そのため、今回の FW を活かして彼らに関する情報の収集をすることが個人的な目的になっていました。（ハローワークや県庁を訪れたのはこれに関連した情報の収集、ヒアリングが理由です。）

【ハローワーク那覇編】

ゆいレールのおもろまち駅から徒歩 10 分程度のところにあるハローワーク那覇を訪問しました。訪問目的は、「1、沖縄県外から沖縄に移住した人びとの雇用状況に関する統計データを収集するため」「2、同上の人びとの実態についてハローワークの職員の方からヒアリングを行うため」の 2 点でした。今回、研究者のはしぐれとしてはあるまじきアポなしの飛び込み訪問であったのにも関わらず、ハローワーク那覇の男性職員の方からお話を伺うことができました。男性職員いわく、やはり県外からの移住者は統計データには残っていないが、少なからず存在するというものであった。実はこのような人々の存在に半ば懐疑的であった私にとって、どうやらこの現象が単なる噂ではないらしいという情報は大きい。これに加え、主な収穫としては、「沖縄県外からの求職者の割合は那覇市では全体の 10% 程度で、その多くがインターネットを通じて情報収集を行っている」ことや、「県外からの移住者の多くは那覇などの市街地よりも石垣島などの離島を好む傾向にある」ということでした。特に後者について詳しくお話を伺ったところ理由は単純で、要するに県外からの移住者は沖縄に「癒し」や「きれいな海」といった典型的な「沖縄イメージ」を期待しているため、市街地の喧騒を避けてより「沖縄的な」離島暮らしを選択する傾向にあるということでした。

また、同じ施設内にある沖縄県キャリアセンターの女性職員の方からはさらに興味深いお話を伺うことができました。彼女曰く、やはり県外から沖縄県内の就職に関する問い合わせは一定程度あるということでした。県外から沖縄に移住する人は大きく 2 つのパターンに大別され、沖縄に来る目的が明確な集団と、かたや目的が全く定まっておらず、ただ沖縄が好きだからという理由でろくに下調べもせずに沖縄に来てしまう集団が存在するらしいです。女性職員の方に教えていただいた、後者に属するとある男性のケースを紹介し

沖縄 FW7 日目（2011年10月13日）

ます。県外からやってきたこの男性は、突如としてこのキャリアセンターを訪れ、就職先探しを希望したそうです。なんのコネもアテもない状態で沖縄にやってきた彼は、そのような状況にも関わらずに紹介された就職案件を「賃金が低すぎる」という理由で全て断り、結局自分で仕事を探すことにします。（ちなみにこの際に紹介した案件は沖縄ではスタンダードなものであったとのこと。たしかに東京と沖縄の最低賃金は異なりますが、それくらいの情報すら把握しないまま沖縄にやってきてしまうというところがすごいというか、なんというか。。。）後日談ですが、結局かれは名護市周辺の海で監視員の仕事を始めたそうです。なんでも給料は低いけれど「海が好きで、海で働きたいから問題ない」とか。このような人もいるということ自体が新鮮で驚いてしまいます。なお、参考までに補足しておく、このケースの男性に限らず沖縄の就職状況はかなり悪いと言わざるを得ない状況にあります。求人倍率は平均して 0.3-0.4%を推移し、失業率も 7%程度です。このことから、県外から沖縄に移住してきた人々はかなり苦境に置かれているのではないかということが想像できます。

【感想、あとがきに代えて】

ハローワーク那覇への訪問を通じての全般的な感想としては、やはり県外から沖縄に移住する人が本当に存在するということが地元の人のお話から確認できてよかったということがまずあります。しかしこれに加えて感じたことは、彼らの状況はあまりよろしくはないのではないかということです。沖縄に明確な目的もなく訪問し、コネもアテもない状態で彼らがどのように生計を立てていくのか。沖縄県人だけでも失業率が 7%もあるにもかかわらず、本土からの移住組の彼らにまわされる仕事はあるのか。ますます彼らに対する興味が深まる結果となりました。しかし、予想していたことではありますがやはり統計的にこういった人々の情報を追うことがかなり難しいということも再確認することになりました。今後は統計データの収集はある程度で見切りをつけ、それよりもっとナマの人に密着し、彼らについて知る作業が必要だと感じています。

【写真】

上から順にハローワーク那覇、シンポジウムの様子。

沖縄 FW 7 日目 (2 0 1 1 年 1 0 月 1 3 日)



沖縄FW7日目（2011年10月13日）

